



# 令和7年度 学校評価アンケート分析報告

児童の声から見る「信頼・成長・未来への提言」

実施時期：2026年1月  
対象：全校児童（1年～6年）  
データソース：生活ふり返しカード

# 全体総括：高い「信頼感」と課題となる「自律性」



## 学校への高い満足度と教員への信頼

全学年を通じて「学校は楽しい」「先生は話を聞いてくれる」という回答が圧倒的多数。特に6年生の自由記述では、教員への深い感謝が多数見られる。



## 高学年における生活習慣と主体性の低下

学年が上がるにつれて「早寝早起き」「翌日の準備」「家庭学習」の数が低下傾向にある。また、授業での「質問」や「意見発表」への戸惑いが見られる。

# 生活習慣：学年進行に伴う「生活リズム」の乱れ

## Q1. 早寝早起きなど、規則正しい生活



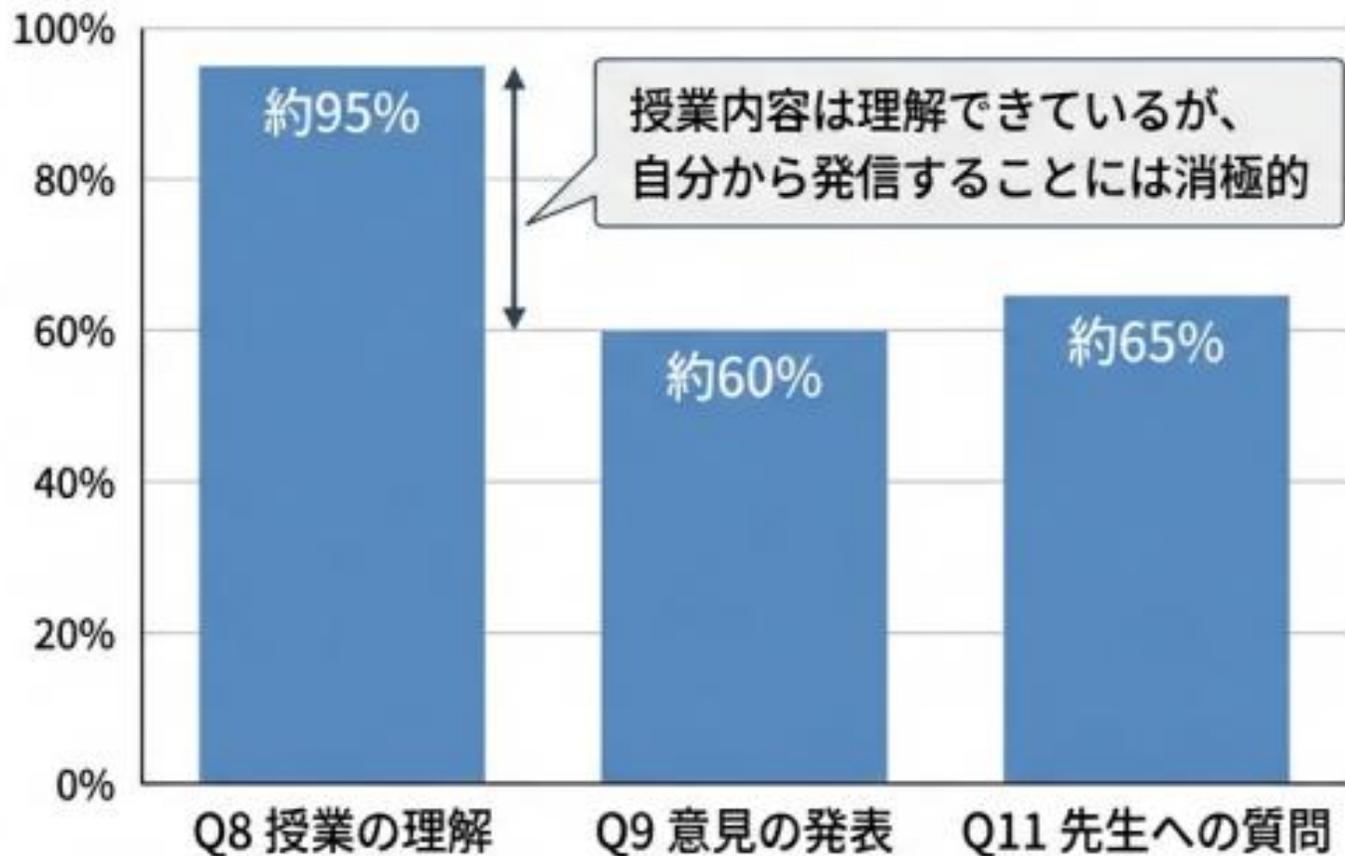
## Q2. 翌日の持ち物準備



### 【分析】

低学年 (Grades 1-2) : ほぼ全員が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答。規律が守られている。  
高学年 (Grades 5-6) : Q1 (早寝早起き)、Q2 (持ち物準備) において「あまりそう思わない」層が出現。生活リズムの乱れは、学習集中力への影響が懸念される。

# 学習姿勢：「理解」はしているが「発信」に課題



## Student Voice

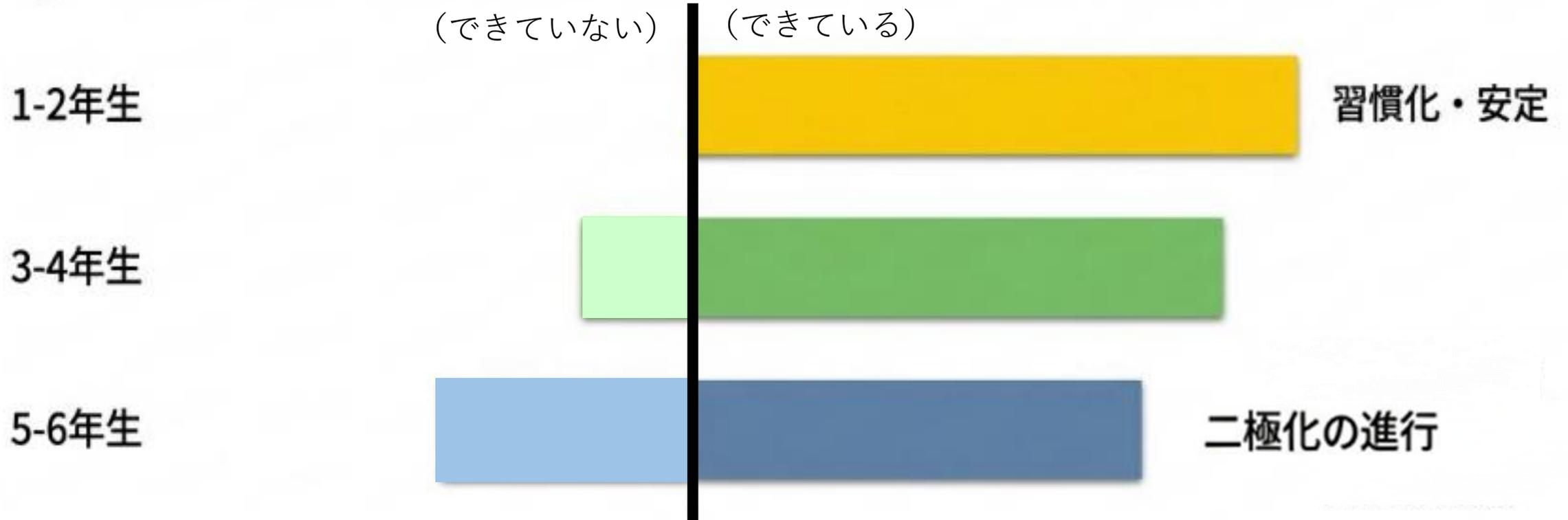
「もっと、調べ学習とかに行きたいです。」

児童の自由記述より

児童は受動的な授業よりも、探究的な学びを求めている可能性がある。

# 家庭学習：高学年で見られる二極化

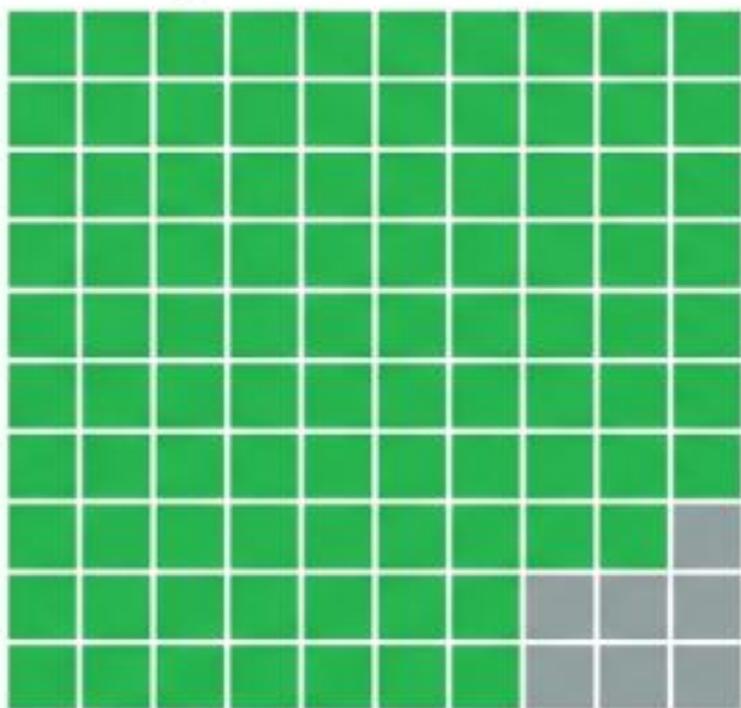
## Q5. 家での学習が毎日できている



自学自習の習慣を再構築する指導が必要。

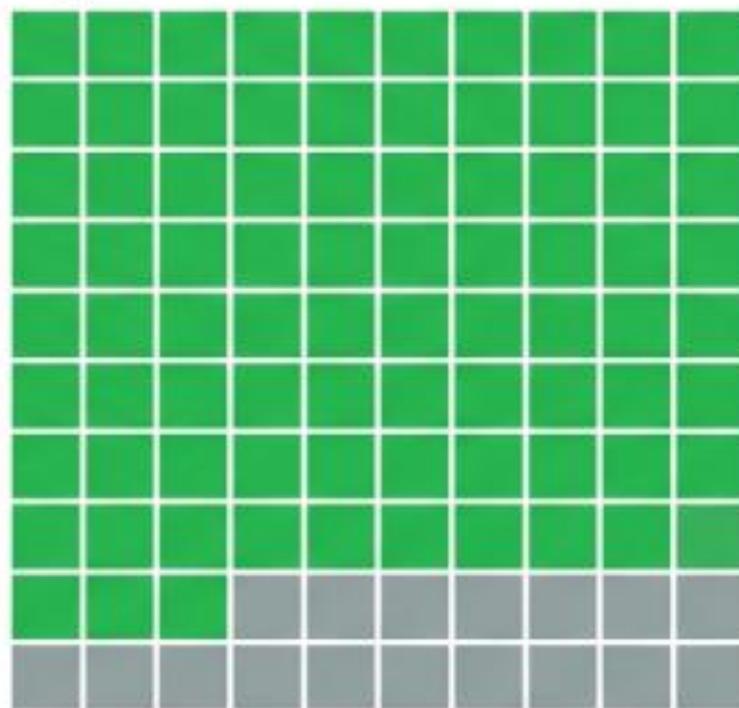
# 心の居場所：学校は「楽しい」場所であり続けている

Q7 学校は楽しい



全学年で高水準を維持。

Q16 友達と仲良くできている



トラブルがあっても、基本的には「仲良くできている」と感じている。

友人関係と学校生活への満足度は、学習の基盤として機能している。

# 教員との絆： 児童が語る 「感謝の気持ち」

「先生6年間ありがとうございました。」

児童の自由記述より

「授業をわかりやすく教えてくれたり、  
受験のサポートをしてくれたりして、  
本当にありがとうございました！」

児童の自由記述より

「先生いつも授業も分かりやすいし  
優しいし本当に助かってます！！！！」

児童の自由記述より

Q13（悩み相談）の数値の  
高さは、これらの記述に  
裏付けられている。

# 児童の声：より良い学校生活への要望



## 学習環境 (Learning Environment)

「クラスを少し静かにしてほしい。」



## 給食 (Lunch)

「毎日、給食でデザートが出てほしい。」

「おかず大や米、唐揚げをふやしてほしい」



## 行事 (Events)

「お楽しみ会を増やしてほしい」

高学年は学習環境の規律（静けさ）を求めている側面がある。

# 成長の軌跡：低学年から高学年への変化

低学年（1-2年）

中学年（3-4年）

高学年（5-6年）



規律正しい生活、先生への絶対的信頼。

【素直】



探究心の芽生え（調べ学習への意欲）。個別の悩みが出始める。

【変化】



生活習慣の個人差が拡大。受験や卒業を意識し、精神的な支えを先生に求めている。

【自立と依存】

# 今後の指導指針



## 1. アウトプットの強化

授業での「質問」「意見発表」を促す仕掛けづくり。3-4年生からの「調べ学習」の充実。



## 2. 高学年の生活リズム改善

家庭と連携し、睡眠・準備・家庭学習の習慣を再確認する。



## 3. 信頼関係の維持・深化

児童は教員の「肯定(Q12)」と「傾聴(Q13)」を評価している。この強みを継続し、心理的安全性を守る。